

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700365		
法人名	日総ふれあいやサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム十勝の社 1階		
所在地	中川郡幕別町札内豊町39番地の3		
自己評価作成日	H28年12月29日	評価結果市町村受理日	平成29年2月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0194700365-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0194700365-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の中に位置し、周囲には公園やスーパーがあり利用者様の散歩や買い物などの活動を行いやすい環境にあります。  
小規模な生活の場として、集団ではなく個別の関わりを多く持てるように配慮しケアに取り組んでいます。安心  
心で心豊かな生活を提供するために、健康維持に欠かせない食事については、栄養バランス・季節感に配慮しております。  
行事や外食の際は、利用者様の心身状況に合わせて個別に外出を行ったり、希望を聞きながら計画しています。  
協力医療機関による定期的な訪問看護と往診を受け、状態の変化にも適切な助言と診療で出来る限りホームでの暮らしを継続して頂ける様に支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

気候や天候のよい時期には付近のショッピングセンターに散歩がてら買い物に出かけられる環境にあり、新しい住宅が立ち並ぶ住宅街にある「ふれあいの里グループホーム十勝の社」は利用者一人ひとりの思いや、暮らし方の意向を反映した生活が出来るよう取り組んでいる。その情報は日常の介護の中や家族から得ており、カンファレンスや毎日の申し送りや伝達され職員全員が共有出来るよう取り組んでいる。また、利用者のプライバシーや尊厳を傷つけない取り組みは徹底されている。特に言葉遣いについては毎月の会議や日常の業務の中で職員同士で話し合わせ、真意が伝わる声かけを心がけている。また、毎月「その方の状況に合わせた些細な気付きにも見逃さないように協力、連携を図る」等重要事項を課題として取り上げ全体の質の向上に取り組んでいる。利用者家族の信頼は厚く、特に医療機関との連携を取った訪問診療や看護等健康面での安心を得られており高い評価と成っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える場所(各フロア)に掲示しており、事業所の理念を開設時に作成し、方向性に迷う時は再度確認しながら取り組んでいる。	法人の経営理念、行動指針を玄関に掲示し事業所理念を各ユニットフロアの目につきやすい個所に掲示して実践につなげられる様取り組んでいる。	理念の持つ意味、重要性を認識し、共有して実践につなげられる取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	来訪時には近況を伝え言葉を掛けたりして関わりを持っている。町内会に加入し、事業所への理解も得る様に努めている。幕別町の介護相談員や高校生の職業体験実習等を受け入れている。	町内会(公区)に加入し、総会への出席や清掃活動に参加している。事業所の花見等の行事には公区役員や民生委員へ案内をして参加を得ており相互交流に取り組んでいる。また、町の介護相談員を定期的に受け入れ利用者と交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講習時に使用した資料を目にして学び、何を伝えようとしているのか表情をくみとり傾聴し、理解を深めようとして心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ホームの状況報告や情報交換の場を設け、質問・要望を確認している。参加ご家族が就労中の方が多く、出席率の低下傾向が見られる為、今後の課題と考えている。	運営推進会議は利用者家族、民生委員、町担当者の出席を得て開催し、利用状況、活動状況の報告を行い意見をj得ている。また、家族や地域への研修として口腔ケアを取り上げ知識向上に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険事業所として必要な報告と相談の他に、日頃から相談、報告等を行ない協力関係を築いている。	町担当者とは、運営推進会議に出席頂いたり報告書提出時に相談や助言を得ており、日常的に協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行なっていない。利用者が自由に動ける環境と、時には見守りも実践している。今後とも外部への研修参加や内部研修を実施し現状維持していきたいと考える。夜間帯は1人体制で勤務している為、出入り口の施錠を行なっている。	管理者、職員は身体拘束防止に向けて外部研修に参加する他、伝達研修で内部研修を行い、身体拘束が及ぼす弊害や、指定基準における禁止対象となる具体的事項や不適切で行動抑制につながる言葉遣いについて正しく理解し、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修などに参加して、注意を払い防止に努めている。身体のみならず、言葉かけにも配慮しながら振り返る時間を設け、不快にならないケアに努めている。		

ふれあいの里 グループホーム十勝の社

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記制度利用の方については、係るべき部分で支援している。職員の中には、制度の理解に乏しい者もあり、今後も研修等で学ぶ機会を設け活用しながら支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込みの時点で不安や誤解のない説明を心掛け、書面と口頭で説明を行っている。入居後も同様に、確認し不安のないように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に状況報告し、家族が話しやすい雰囲気作りを心がけている。またフロアミーティング等で早期に実行出来る様に努めている。	利用者からの要望は職員全員で共有して反映できるよう取り組んでいる。利用者家族の訪問はそれぞれになされており、面会時には職員との会話で意見や要望を把握している。管理者や職員の携帯電話の番号が知らされており電話での連絡もなされている。また、毎月のお便りでの報告もあり要望は適切に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングや、個人面談等で意見要望を聞き取っている。	職員の意見や提案は毎月の全体会議の中や、日常の業務の中、年に1回管理者が行っている個人面談の中で把握され運営に反映できるよう取り組んでいる。また、研修は年間計画の中で取り組み、勤務年数での研修を行い知識の向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や資格保有に伴った正職員移行制度や面談し就労条件の確認後、正職員移行制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての職員教育制度により、役職者研修や段階別研修、目的別研修を実施している。その他勉強会を事業所で開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会主催の研修に可能な限り参加し、他GHとの交流の機会を設ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、生活歴や現状で困難な事を聞き取り、まとめた情報を職員で把握できるようにしている。安心と信頼して生活できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に、本人の意向と併せて家族からの要望にも耳を傾け、信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意思決定ができる方は、本人も交えながら希望に沿った支援が出来る様にしている。また、難しい方は、日常生活の様子をご家族も把握しやすい様に報告し、相談をしながら生活の支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の意向や表情を確認しながら食器拭きや洗濯干し等、体操等を職員と共に取り組んでいる。コミュニケーションの中で暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡や通院介助は管理者や計画作成者が行っている。通院時には同行が可能か確認し、共に体調の把握が出来る様にしている。来訪時や行事で一緒に過ごす機会がある時は職員も最近の状況を伝え家族との信頼関係を築ける様に努めているが管理者や計画作成者任せの職員もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みのある写真等を置いたり、馴染みの場所へ行きたいと希望がある際は、家族と協力し本人の思いが途切れない様に支援している。	馴染みの美容室への訪問は少なくなったが、希望がある時は家族の協力で取り組んでいる。利用者の知人の訪問があり雰囲気作りに取り組みながら、関係継続が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の生活パターンに合わせて空間を守りつつ、個別ケア等で孤立せず楽しく過ごせる様に取り組んでいる。利用者同士の相性を考慮した席の配置となっている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(1階)	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時に他施設の申込みを確認し、退去に繋がる事由があった場合には、家族と話し合い、本人や家族が納得できる方向性を示している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からケアプラン更新時期や来訪時に暮らしの希望を伺い把握し、個々にできる事は違う為困難な場合も含めて本人本位に検討し希望に添える様に努めている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、日常の会話の中や、家族からの情報で把握し、希望に沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や関係施設から情報を頂き、その人らしさを把握する様に努めている。生活において発見した事は活かせる様に記録を残し検討する事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の興味・関心事を定期的に職員で検討し、本人の意思を確認しながら支援に努めている。出勤時に介護記録や業務日誌の確認、口頭で連絡し職員間で情報を共有できる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々に合ったケアが出来る様に定期的にモニタリングを行ない、ミーティングで意見やアイデアを出し合いケアの内容を検討している。また家族と情報交換し意向を踏まえてプランの作成を行なっている。	介護計画は利用者の状況に合わせてたてられているが、基本的には6ヶ月で、利用者や家族の要望を反映させ見直しを行っている。毎月カンファレンスに取り組み職員全員で状況を把握して適切なサービス提供が出来るよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやミーティング、日々の記録で入居者の変化等を確認している。ケアプランの更新時期に本人・家族に提案して見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族からの情報収集を怠らない様努めている。本人や家族が希望する場合には、協力医療機関にとどまらず、適切な医療を受ける支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が必要としている地域資源やボランティア、地域行事などを率先して活用するようにしているが、すべての利用者に満遍なく行き届いているという状況ではない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関での受診だが、馴染みのかかりつけ医がある場合には適切な医療が受けられる様その限りでなく、往診医との連携が出来る様に支援している。	かかりつけ医は提携医療機関が多く、利用者は月2回の訪問診療を受けている。他の診療は家族の協力で受診しているがその際は情報提供している。また、毎週1回、提携医療機関の訪問看護も受け全員の健康管理に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、提携病院の訪問看護を受けており、必要な相談事項は記録や職員からの聞き取り、入居者の訴えから書面と口頭にて相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要となる情報は、個人のファイルに綴じて情報交換の際に活用している。早期退院に向け、入院中は面会をし体調の把握に努めている。また、入院中の変化や新しい情報は記録し、職員へ周知している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に係る指針を説明。入院や治療が必要になった時点でも、今後の方向性について話し合う時間を作っている。可能な限り、担当医師からの説明に同席している。	利用契約時に「入居者が重度化した場合の対応に係わる指針」で事業所の取り組む方向を説明し、現状での出来る限りの取り組みに理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは常に職員の目につく所に設置しており、フロアミーティングでも定期的に確認する機会を設け、急変が起きても対応できる様に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練で日中・夜間想定で実施をしている。地域での避難場所が把握しやすいように、職員が見やすい場所へ掲示している。水害や地震災害に備えたマニュアルを作成中。	火災の避難訓練は年2回、日中、夜間想定で消防署の指導を得て実施している。その他、風水害、地震等のマニュアルを本社で作成して、それをもとに当事業所に適応させたものを作成して備えている。地域住民には訓練に声掛けを行い協力を呼びかけている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として優しく丁寧な言葉使いをするように心掛けているが、口調が雑になる場合もあり職員間で気を付ける様に努めている。又入浴や排泄時でも人格を尊重し配慮ある対応を心がけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し丁寧な呼びかけと言葉遣いで支援に取り組んでいる。特に言葉遣いについては大声や、雑にならないよう職員同士でも注意し合いながら対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に声掛けや確認をしてからケアに当たる様に努めている。自己表現が困難な方には気持ちが察せる様にコミュニケーションを取り理解できる様に努めている。可能な範囲で選ぶ機会を提供できる様に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険が無ければ本人の意向に沿った生活を送れる様に支援している。レクやゲーム・テレビ鑑賞・読書・体操・散歩など希望を聞きながら行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の髪の流れ・目ヤニ・口腔内や衣服の汚れ等確認している。2ヶ月に1回は訪問美容の利用もしており、服装も好みの色や季節に合わせた物を支援している。		

ふれあいの里 グループホーム十勝の社

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のしたい事や出来る事を把握し本人の希望を確認しながら家事の手伝いを一緒にしている。食事の盛り付けに気を付け、行事等は盛り付けや飾りつけも一緒にやっている。	メニュー、食材は本社で用意され配送されてくるシステムを採用している。毎年各事業所管理者、担当者による給食会議を行い、利用者の希望や味付けについての検討を行っている。また、行事等ではメニューを変更して楽しい食事になるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立を基に調理している。食事量、水分量に関しては記録し状況把握できる様になっている。また、水分が足りない時などは本人が好きな物や食べやすい物を提供し脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人に合わせた口腔ケアを行なっている。仕上げに職員が歯間ブラシや口腔用スポンジを使用し磨き残しの確認を行ない、口腔内に異変があった場合は家族に確認後歯科往診を受けている。年に1回集団歯科検診を利用し助言を得ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の体力に合わせた排泄パターンや水分摂取量を把握しトイレでの排泄が続けられる様支援している。失禁軽減を目指し清潔保持や誘導に努めている。	利用者一人ひとりの記録を取りながらトイレのサインやパターンを把握して、誘導に努めている。極力自力での排泄をめざし能力が落ちないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の間隔と形状を把握すると共に、その人の活動量や水分食事量の把握をしている。個々に合わせて腹部マッサージや飲用しやすい乳酸菌飲料を毎日摂取し日常的に便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて日中帯で入浴している。体調不良時や外出等で入浴の順番を変更する事もある。個々に合わせて普段では話す事が出来ないコミュニケーションの場ともなり楽しみを支援している。	週2回の入浴を基本としているが、その日の状態や、状況を考慮しながら無理のない入浴を心がけている。入浴時にはコミュニケーションを取るよう心がけ、思いや希望の把握に役立てている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	光や音、温度や湿度に気を配り安眠出来る様に支援をしている。本人が休息の希望があれば意向に沿える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容をいつでも見れる様に、わかりやすい所に設置し変更時は確認出来る様に記録に残しているが、すべての職員が内容や効果の把握は出来ない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が自然と手伝ってくれることが継続して出来る様見守りをしている。本人や家族から昔からの習慣を聞き、できる事・やりたい事を把握し支援している。		

ふれあいの里 グループホーム十勝の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物等で外に出掛けて気分転換になる事が少ないが、回転ずしランチや誕生日に喫茶店で好きなおやつを食べに行きお祝いする等の外出レクを企画し普段と違う活気ある時間を過ごせる様取り組んでいる。	気候のよい時期には散歩や外気浴で屋外に出ている他、季節により、近隣の公園での花見やドライブで近郊に出かけている。近郊の回転ずし店や、誕生日には菓子店の喫茶ルームに出かけお祝いして楽しい時間を過ごし、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭の預かりはしていない。家族の了承の元、自己管理にて所持している入居者はいるが、外出機会を設けても、買い物で使用する事はほとんど見受けられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り支援している。家族と相談し取り扱いを決めていくが、管理者や計画作成者任せの職員もいるのが事実である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は自然光が入り24時間空調換気・温度湿度計を置き適切な温度になる様連暖房の調節を行っている。又毎日掃除を行い清潔に過ごせるよう努めている。季節感を感じて頂ける様に、クリスマスグッズや雛人形など、飾りつけにも配慮している。	共用空間は床暖房で24時間換気を採用し温湿度計を設置して適切な環境になるよう取り組んでいる。特に冬期間は湿度が不足がちになるが、加湿器や、洗濯物で補っている。また、季節の飾り物や写真を掲示して楽しく、居心地のよい空間づくりを目指している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では一人になれる場所が決まって確保しており、食堂では気の合った同士が並んで座る事が多く位置などに工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室での使用品は基本、本人の物とし、配置も家族、本人と決めてもらっている。また、模様替えを必要となった時は、本人や家族と相談し行うようにしている。	居室はクローゼットが用意され、利用者の使い慣れたベッドや筆筒等の家具が配置されている。家族の写真や絵を飾り自宅同様に過ごしやすいように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には目立つ様に名前を貼り利用者が迷わず自分で行ける様取り組んでいる。廊下に手すりを設置しホーム内に段差を無くし安全に歩行や車椅子の自走を行えるよう取り組んでいる。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700365		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム十勝の社 2階		
所在地	中川郡幕別町札内豊町39番地の3		
自己評価作成日	H28年12月29日	評価結果市町村受理日	平成29年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の中に位置し、周囲には公園やスーパーがあり利用者様の散歩や買い物などの活動を行いやすい環境にあります。  
小規模な生活の場として、集団ではなく個別の関わりを多く持てるように配慮しケアに取り組んでいます。安  
心で心豊かな生活を提供するために、健康維持に欠かせない食事については、  
栄養バランス・季節感に配慮しております。  
行事や外食の際は、利用者様の心身状況に合わせて個別に外出を行ったり、希望を聞きながら計画しています。  
協力医療機関による定期的な訪問看護と往診を受け、状態の変化にも適切な助言と診療で出来る限りホームでの暮らしを継続して頂ける様に支援しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0194700365-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0194700365-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年1月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の把握は行えているが、理解し実践に活かす事が出来ていない時もあり、再確認し取り組む努力をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内の清掃にも積極的に参加している。幕別町の介護相談員や高校実習生の受入れも行なっているが、基本的に管理者が中心となつての関わりが多い。職員も機会がある時は交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解は日々の関わりの中で学んでいるが、難しく感じる事や歯がゆさを感じる事も多い。運営推進会議での報告で認知症の症状についても説明しながら伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ホームの状況報告や情報交換の場を設け、質問・要望を確認している。参加ご家族が就労中の方が多く、出席率の低下傾向が見られる為、今後の課題と考えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険事業所として必要な報告と相談の他に、日頃から相談、報告等を行ない協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルの作成、職員が見えやすい所に掲示している。理解する事によって利用者に安心してもらえる様に取り組んではいるが、夜間帯のリスクを考慮し2階出入口の施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を設け、虐待に繋がらないよう関わりの中で意識しているが、声のトーンや言葉一つで相手を不快な思いをさせることがあるため、振り返る時間を設けて、再確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記制度利用の方については、係るべき部分で支援している。職員の中には、制度の理解に乏しい者もあり、今後も研修等で学ぶ機会を設け活用しながら支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込みの時点で不安や誤解のない説明を心掛け、書面と口頭で説明を行っている。入居後も同様に、確認し不安のないように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で質疑応答の時間を設けたり、面会時に状況報告し意見等何でも言って貰える関係づくりを心掛けている。意見・要望・苦情等は記録を作成しミーティング時に職員で確認している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングや、個人面談等で意見要望を聞き取っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や資格保有に伴った正職員移行制度や面談し就労条件の確認後、正職員移行制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての職員教育制度により、役職者研修や段階別研修、目的別研修を実施している。その他勉強会を事業所で開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会主催の研修に可能な限り参加し、他GHとの交流の機会を設ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談した情報を閲覧し、職員全員で把握を行っている。入居後は不安や要望がないか、信頼関係の構築も含め関わる時間を増やし情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する初期段階では、管理者対応が多いが、関わる機会があれば積極的に会話をする様に努め、信頼して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意思決定ができる方は、本人も交えながら希望に沿った支援が出来る様にしている。また、難しい方は、日常生活の様子をご家族も把握しやすい様に報告し、相談をしながら生活の支援を提供できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で話を傾聴し、本人の希望を引き出し共に出来ることを探しているが、介護的になってしまっている所がある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	隠れたニーズを掘り起こすために、日々の声掛けや関わりで関係を築き、出来るところ出来ないところを見極め、支援するように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後は面会に来てもらうだけでなく、本人の希望に沿い外出し会いに行ける様に対応しているが、入居期間が長くなったり、認知面の進行が見受けられると面会の機会が少なくなるのも現状としてある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を傷付けない様な声掛けをし、利用者同士の関係の介入、孤立しない様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時に他施設の申込みを確認し、退去に繋がる事由があった場合には、家族と話し合い、本人や家族が納得できる方向性を示している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、望むことや思いなどを汲み取り、常に本人が満足出来る様に努めている。また、コミュニケーションが困難な方にはその方に合ったコミュニケーションを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や家族からの話、生活歴などを参考にし本人との日々の関わりから情報を得る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を送る中で、観察を怠らずに把握に努めているが、本人の出来る事を上手く引き出しきれてないと感じる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のケアカンファレンス実施にて、利用者の近況報告やケア見直しに繋げており、家族との意見交換の上、介護計画の作成をしている。また、職員一同への周知、実践を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録、ケアカンファレンスなどの活用し、情報共有や意見交換を行い日々のケアに活用し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族からの情報収集を怠らない様努めている。本人や家族が希望する場合には、協力医療機関にとどまらず、適切な医療を受ける支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が必要としている地域資源やボランティア、地域行事などを率先して活用するようにしているが、すべての利用者に満遍なく行き届いているという状況ではない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関での受診だが、馴染のかかりつけ医がある場合には適切な医療が受けられる様その限りでなく、往診医との連携が出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、提携病院の訪問看護を受けており、必要な相談事項は記録や職員からの聞き取り、入居者の訴えから書面と口頭にて相談を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要となる情報は、個人のファイルに綴じて情報交換の際に活用している。早期退院に向け、入院中は面会をし体調の把握に努めている。また、入院中の変化や新しい情報は記録し、職員へ周知している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に係る指針を説明。入院や治療が必要になった時点でも、今後の方向性について話し合う時間を作っている。可能な限り、担当医師からの説明に同席している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは常に職員の目につく所に設置しており、フロアミーティングでも定期的に確認する機会を設け、急変が起きても対応できる様に備えている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練で日中・夜間想定で実施をしている。地域での避難場所が把握しやすいように、職員が見やすい場所へ掲示している。水害や地震災害に備えたマニュアルを作成中。			

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格の把握に努め、個々に合わせた声掛けや言葉使いを行っているが、時折出来ない事がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中で、利用者が発する希望や決められるであろうことを汲み取り、本人が出来たという満足感を得られるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人にあったペースで生活出来る様に支援しているが、必ずしも思いが叶えられるという訳ではなく、職員の都合で行なってしまうところも、時折ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が意思決定出来る場合は希望に沿うようにし、意思決定出来ない場合は過去の情報から本人の嗜好に添った支援を行うように努めている。		

ふれあいの里 グループホーム十勝の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全員が満足する料理の提供は難しいが、職員が主体にならないよう、食事の準備や後片付け等、一緒に出来る様に努めている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立を基に調理している。食事量、水分量に関しては記録し状況把握できるようにしている。また、水分が足りない時などは本人が好きな物や食べやすい物を提供し脱水予防に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年1回、集団歯科検診を受け、適切な口腔ケアができる様に助言を頂き実践している。毎食後の口腔ケアで、その都度口腔内の確認を行っている。拒否があった場合は時間をずらして対応し、嫌な気持ちにならない様に心掛けている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自然排泄が出来るように、トイレでの排泄を促し、また、習慣を把握し、個々に合ったトイレ誘導を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で、運動の実施や水分量の把握、便秘傾向の利用者には乳製品などの提供し無理のない排便リズムが取れるように支援している。また、下剤を使用する時も、負担にならない様に調整し、病院との相談を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員が都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が苦痛にならないよう、本人のその日の気持ちや体調、声掛けの工夫を行い実施している。また、入浴中も楽しめるよう、話題の提供なども行ない満足出来る様に努めている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の関わりで体調を観察し、個々に合った休息が出来るよう支援している。夜間も職員が都合で眠るようにせず、本人が心地良く休んで頂ける様に努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容をいつでも見れる様に、わかりやすい所に設置し変更時は確認出来る様に記録に残しているが、すべての職員が内容や効果の把握は出来ない。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一度、行事を行い、それ以外にも日々の中での家事、レクリエーションの実施と特定の方ではなく、個々が楽しめる物を提供出来る様に努めている。			

ふれあいの里 グループホーム十勝の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食行事の機会や、家族との外出、天気の良い日の散歩などを実施するようにし、本人の希望に沿える様にしているが、日常的には行えていない事が多い。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭の預かりはしていない。家族の了承の元、自己管理にて所持している入居者はいるが、外出機会を設けても、買い物で使用する事はほとんど見受けられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば使用できる事はしているが、家族からの要望にてかけられない利用者もいる。その方には、納得してもらえる様に対応に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは衛生的にしており、季節毎の飾り付けを行い、心地良く過ごして頂ける様に配慮している。また、太陽が差し込みやすい為、時間帯によってはカーテンをしたり、天候によっては電気を付け、利用者が違和感なくすごして頂ける様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性の把握に努め、座る配置に配慮し、くつろげる場所の提供に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室での使用品は基本、本人の物とし、配置も家族、本人と決めてもらっている。また、模様替えを必要となった時は、本人や家族と相談し行うようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に必要な手すりや、場所がわかりやすい案内板を設置している。ADLに合わせた環境整備に努めている。		



目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホーム十勝の杜

作成日：平成 29年 2月 3日

市町村受理日：平成 29年 2月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の重要性を理解し実践に繋げる事が課題	理念の意味を理解し実践に繋げチーム全体として関われる職場となる	毎月理念を確認し、方向性を全員で認識。併せて評価も行う	12ヵ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。